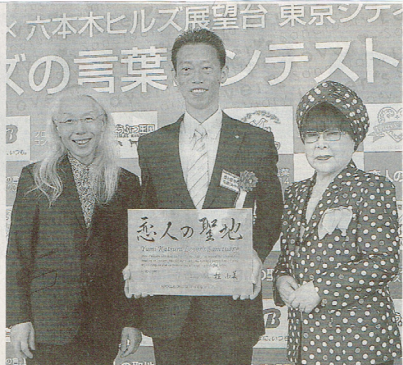


三宅町は「恋人の聖地」

万葉歌の花 アザサ保全評価

静岡のNPOが認定



假屋崎さん（左）、桂さん（右）から「恋人の聖地」の銘板を受け取った志野町長（東京都内で）＝三宅町提供

三宅町が、プロポーズにふさわしいロマンチックなスポットとして、NPO法人「地域活性化支援センター」（静岡市）が選ぶ「恋人の聖地」に認定された。愛をうたった万葉歌に出てくる町の花アザサにまつわる歴史や町の取り組みが評価された。秋には町内の万葉歌碑周辺に銘板を設置する予定で、「歴史と愛の町」として売り出す方針だ。

「恋人の聖地」は、少子化対策や地域活性化を目的に同センターが2006年

から始めたプロジェクト。全国125か所が選ばれており、県内では桜井市の大神神社・大美和の杜に次いで2か所目。

古代に朝廷の直轄地・屯倉があった三宅町は古くからアザサの咲く地として知られ、万葉集には、「三宅の原」を経て妻子のもとに通う息子を案じる親の歌と、息子が妻への思いをこの花とともに詠んだ歌が収録されている。こうした愛を歌った万葉歌をはじめとする豊かな歴史や、いまや準絶滅危惧種となったアザサを守り育てようと、町をあげて取り組んでいることなどが、「恋人の聖地」にふさわしいとされた。

東京で5月29日にあった授与式で同センター理事のファッシュンデザイナー桂由美さんと華道家假屋崎省吾さんから「恋人の聖地」の銘板を受け取ったという志野孝光町長は「三宅町は、聖徳太子が休息する際に住民が風よけの屏風を立てて接待したと伝わるなど、慈愛の心も根づいている。

『愛に満ちあふれた町』として広くPRしていきたい」と話していた。